

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000253		
法人名	有限会社みのり		
事業所名	グループホーム次屋の郷 いな穂		
所在地	兵庫県尼崎市次屋4-3-9		
自己評価作成日	平成27年2月17日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“活動”と“参加”の考え方、人としての尊厳をまもることを基本にした理念のもと、行動指針にアクティビティ・生活リハビリを掲げて、利用者様のできる活動を維持し増やしていけるよう、日常生活の中での取り組みを進めるとともに、安心して穏やかに、健康でその方にふさわしい暮らしを送っていただけるよう支援させていただくよう心がけています。そこで、支援の実践にあたっては、①利用者様の希望や得意なことを勘案し、できる活動に気づきながら、体操や散歩、ゲーム、音楽療法など、楽しみながらリハビリを実践していただけるように努めています。②また、利用者様お一人おひとりのこれまでの生活の歴史を大切に、生活のすべてにおいて人としての尊厳をまもり、人生の先輩として親切丁寧に接することを職員全員で繰り返し確認しています。③さらに、ご家族との交流を大切に、福祉・介護相談の展開を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成27年3月5日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はマンションや商店が多い地域に立地している。利用者一人ひとりの生活歴を大切に、利用者を人生の先輩として敬う心を持ち、寄り添う介護に取り組んでいる。アクティビティ、生活リハビリに積極的に取り組み、利用者の出来る活動を維持しながら、健康でその人らしく暮らし続けることが出来るよう努めている。OJTを通じての新入職員に対する介護技術の習得、定期的な職員研修の実施等、職員の資質向上に取り組んでおり、職員の定着率は良い。また、介護相談の継続的な実施、管理者と中学生とのボランティア活動を通じての相互交流、「夏祭り」「餅つき」等のイベントを通じて地域とのつながりの強化に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>表紙「事業所が特に力を入れている点」に記載した、いな穂の理念のもと、職員の行動指針等を策定して職員全員に周知・徹底を行い、利用者様及び御家族への説明も行っている。</p>	<p>事業所独自の理念をつくり、「地域との交流を大切にし、地域に開かれた運営に努める」と言う地域密着型サービスの目的・役割を明確にしている。理念を基に具体的な行動指針をつくり、理念・行動指針を玄関・各ユニット等に掲示して職員や家族への共有を図っている。毎年、理念・行動指針を具現化するため事業計画を立案し年度末カンファレンス等で、評価を行い次年度の事業計画に結び付けている。日々のケアを会議やカンファレンスで理念に戻って振り返っている。また、地域の中学校と相互にボランティア活動に取り組む等、理念の実践に向け取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>次屋東社会福祉協会(地域の自治会)に加入し、地域の一員として地元住民の方々との交流に努めている。12月には、地域住民の方々との協働と参加でもちつき大会を開催し、交流の機会を持つなどしており、また、近隣の神社のまつり・神輿の巡行にも顔をだしている。 また、歌・囲碁・日本舞踊等のボランティアも来訪がある。</p>	<p>地域の自治会に加入している。近隣の神社の祭りに参加したり、神輿の巡行がある。夏祭り・餅つき等の事業所での行事には地域住民へ案内状を出しボランティアと共に地域の人達が参加している。地域の「すこやかまつり」へ利用者の作品を出展している。散歩時にはお互いに挨拶を交わし、餅つき大会でのお餅を地域の人々に配る等、地域とつながりながら暮らせるよう交流している。管理者が地域の中学校へバスケットボールの指導にボランティアで訪問し、また、中学生がボランティアとして来訪し相互交流が行われている。地域交流スペースを地域の福祉活動に開放したり、事業所前に介護相談の案内を掲げて日常的に介護相談を行なう等、地域で必要とされる活動や役割を担っている。</p>	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3			<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>近隣の方々に夏祭りなどの行事への参加を呼びかけさせていただくとともに、地域交流スペースの設置を行っている。また、施設の前によろず相談の看板をつけ、福祉・介護相談を実施している。さらに、施設に見学にこられた方にも入所のご案内だけでなく、介護相談など行っている。</p>	/	
4	(3)		<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>平成21年11月の開所以来、2か月おきに年6回運営推進会議を開催してホーム運営の現況等について説明し、事業所運営全般にわたる意見をいただいている。特に地域住民代表については、単に代表者1名ということではなく、近隣在住の役員様を含め3名の方に参加いただいている。</p>	<p>家族代表、地域代表として自治会役員・民生委員、地域包括支援センター職員、時には利用者・介護相談員・実習生等が参加して、2ヶ月に1回開催している。会議では利用者の状況、行事や研修等への事業所の取り組み、第三者評価受審結果の報告や事業計画等について話し合っている。夏祭り、餅つき等事業所行事案内の地域への配布を自治会と連携して行う等、運営推進会議の機能を活かしサービスの向上に努めている。</p>	
5	(4)		<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>関係部署職員と密接な連携、情報交換を行うなど緊密な協力関係を構築している。</p>	<p>市担当窓口とは、法令解釈等で日常的に連絡を密に取り、市も上部機関に相談して助言する等、協働関係が築かれている。月2回市が派遣する介護相談員を受け入れており、介護相談員を通じて、また、運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員を通じて、事業所の現状や取り組みを伝え、提案・助言等を得てサービスの向上に活かしている。また、市の職員も参加するグループホーム連絡協議会で意見交換や情報交換を行っている。</p>	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ホーム前道路をトラックが頻繁に通る等の事情もあり、安全確保の為、市とも協議を行い暗証番号による開閉管理を行っているが、利用者様が希望されればいつでも外出していただけるよう対応している。 また、ケアカンファレンス・ケア会議等の場において全職員に身体拘束をしないケアを徹底している。</p>	<p>年間研修計画を立て、定期的に身体拘束をしないケアの理解を深めている。「身体拘束と虐待防止」をテーマにして、フロアごとに同じ内容で2回実施している。研修終了後には欠席者にもアンケート付「研修レポート」を提出させて周知を図っている。「寄り添う介護」に努め、日々のケアの中で不適正と思われる事例があれば、お互いに注意し合い、カンファレンスや会議の場でも身体拘束をしないケアを周知している。職員間で自由な暮らしの大切さや拘束による弊害について話し合っているが、事業所内エレベーターと玄関は、家族にも予測されるリスクを説明の上、安全上やむを得ず暗証番号による使用・開閉を行っており、外出の希望があれば、職員と一緒に付き添って外出している。職員用出入り口は施錠していない。</p>	
7	(6)	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待がホーム内で見過ごされることのないよう、管理者がケア会議等の場で全職員に周知を図っている。</p>	<p>上記の研修実施と共に、会議・カンファレンス等でも虐待防止について周知を図っている。「いつの間にか権利侵害になっていませんか」として具体的な事例を事業所内に掲示し、防止の徹底を図っている。また、「公益通報者保護法」についての研修も行って、虐待の防止に努めている。職員の希望を採り入れたシフト調整や指定有給の消化促進等、職員のストレスや疲労が利用者のケアに影響を与えないよう努めている。また、新入職者にはOJTにより3ヶ月をかけてしっかり介護技術を習得させ、介護技術の拙さが虐待に結びつかないように取り組んでいる。入浴時には利用者の身体状況の確認を行い、日々利用者の言動に留意して、自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い防止に努めている。</p>	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については1名の利用者様の後見を完結し、もう1名の利用者様に関しては利用手続きを進めている。	年間研修計画に「権利擁護、成年後見制度」を採り入れ、フロア毎に同じ内容で実施し研修レポートの提出により制度の理解について周知を図っている。現在成年後見制度を利用している利用者もあり、後見人への連絡・状況報告・証書類の提供等の支援を行っている。パンフレット等も準備しており、新たに活用が必要と思われる人があれば活用できる体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時等には、利用者様・御家族に利用契約書、重要事項説明書、個人情報使用や医療連携体制同意書の内容について時間をかけて説明を行い、疑問や要望にお答えしている。	見学時にはパンフレットと共に、一日の流れを写真を使用してまとめた冊子等を用いて、サービス内容の概略を説明している。契約時には管理者が契約書・重要事項説明書の内容を質疑応答を交えながらしっかり説明している。特に共益費や実費等事業所間で異なる料金等については、別表をパンフレットにも挟み込んで丁寧に説明している。契約内容改訂時には、運営推進会議でも説明の上、根拠を明記した文書を家族に送り、同意を得ている。施設入所等での契約解除にあたっては、退居後の支援方法についての情報提供を行なう等、家族に安心と納得を得て解除している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会来訪時や運営推進会議の際に忌憚のない意見、苦情、要望をいただけるよう配慮するとともに、苦情等について記録しケア会議等の場で職員に周知するとともに早急な対応を心がけている。	家族訪問時には、利用者の状況報告を行いながら家族からの意見の把握に努めている。また、「いな穂だより」とともに、居室担当者が利用者の状況を写真を付けて家族に送り、生活状況を見てもらって意見等が出やすいよう努めている。定期的な介護相談員の訪問受け入れ、時には運営推進会議への参加等で、外部者に意見等を表せる機会を設けている。第三者評価受審時の家族アンケートも貴重な意見として尊重している。家族から要望提案等があればすぐに管理者に報告し対応する仕組みづくりや、事業所に郵便物等が届いた時の対応方法として、居室にレターケースを設けて連絡する等、家族からの意見を運営に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員に声かけを行い、カンファレンス等の会議や、年1回代表者との個別面談制度を採り入れて、職員からの意見・提案を聞く機会を設けている。	管理者は日常的に職員に声かけを行うとともに、カンファレンスや職員との個別面談の機会等で意見提案等の把握に努めている。また、各事業所の管理者を対象にした「管理者会議」や年1回代表者と職員の個別面談の機会を採り入れて代表者が管理者や職員から意見・提案を聞く機会を設けている。面談等を通じて、職員のモチベーションの維持向上を図り、働きやすい職場環境づくりに努めるとともに、記録書式の改善等、職員からの提案を運営に反映させている。法人間の異動は行わず、居室担当制の採り入れと共に利用者との馴染みの関係に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告、職場ミーティング、個別のケアスタッフ面接などを通じて、職員のモチベーションの維持に気を使うとともに、日頃から職場環境の改善、処遇の向上等に努めている。		

自己 評価	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○JTにより、スタッフのスキルアップ・接遇向上を図るとともに、地方公共団体・関係団体等の実施する研修、グループホーム連絡会など他事業所との交流の場に積極的に参加するよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、グループホーム討論会その他福祉関係事業者の実施する行事等に積極的に参加し、職員の他施設介護体験等のための相互交流研修も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアスタッフは、利用者様の気持ちを受け止めて、コミュニケーションを密にする、傾聴と受容を大切に支援するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前から御家族が困っておられること、不安やホームへの要望等に沿ってサービス計画を作成、御家族等と話し合っって計画を確定した後、ケアスタッフとケア方針を決めており、利用開始後も面会等の際に積極的に話し合うなど関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、御家族、関係機関、フロアリーダーと連携し、ケアの方向性を検討している他、病院のリハビリなど他の地域資源の活用も提案するなどしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位の視点から、利用者様ができる活動、例えば掃除・食事の後片づけ、鉢植えの手入れなどその方の役割を発揮して頂く、同じ趣味を共に楽しむことなどを大切にして支援を行っている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と御家族の絆を大切にする支援を心がけており、日頃から利用者様の話を聞き、職員が必要に応じて利用者様と御家族の間の距離を縮められるようコミュニケーションを図るなどの努力をしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例えば利用者様の友人等の来訪、同窓会の案内などの際には、必要な手続き等を利用者様の希望に沿って代行するなどの支援を行っている。	家族に生活歴を記載してもらったり、入居時の「フェースシート」等アセスメント資料での趣味・生活歴等から、また、日々の関わりの中から本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を把握して「業務日誌」特変欄等に記録として残し、情報を共有している。友人の来訪時には利用者の希望に沿った面談場所を提供し、再来訪を依頼して訪問が継続するよう努めている。同窓会の案内状が届いた時には、利用者の希望に沿って手続きを代行し、また、年賀状や手紙等のやり取り支援や家族への外出支援依頼等に努めている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ケアスタッフが間をとりもち、利用者様が共に行う作業等とおして、利用者様どうしの関係づくりを支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを出られた後も、利用時の人間関係を大切にするように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様・御家族からの直接の聞き取り、また、日々の会話や生活の様子を観察をとおして、生活に対する希望や意向をお聴きし、あるいは把握した場合、可能な限り、速やかにそれに沿った支援に取り組むよう努めている。	入居時に家族等から聞き取った「フェースシート」等アセスメント資料や、また、日々の関わりの中で利用者に寄り添い、出来るだけ多くの時間を共に過ごして思いや意向を把握し、「申し送りノート」・「業務日誌」等に記録として残し情報を共有して支援に活かしている。意思の疎通が難しい人はジェスチャー、表情、言動等から本人の立場になって検討し、そのときどきの状況に応じた支援に取り組むよう努めている。耳の不自由な人には低音で話しかけるよう努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の面接等を通して生活歴、暮らし方、人生観・価値観などを詳しく聞き取りフェイスシート及びサービス計画に反映、全スタッフで情報を共有するとともに、利用開始後も生活の中でこれまでの暮らしの把握に努め、ケアに活かしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアの経過記録、業務日報等の記録をもとにケアスタッフ間で話し合い、ケアカンファレンスや申し送り等で現状を把握している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フェイスシート等の情報、利用者様・御家族、医師・看護師等の意見を反映して介護計画を作成し、最低限3か月ごとにモニタリングを実施、御家族・ケアワーカーなどの意見を反映し、必要の都度計画の見直しを行っている。	フェイスシート等の情報や、日々の利用者・家族との関わりの中から把握した、気づき・意向・課題等を月1回開催するカンファレンスで共有し、本人・家族の思いや意向をしっかりと踏まえた上、かかりつけ医・看護師等の意見を反映させ、利用者の状況変化時や介護認定更新時ごとに、「施設サービス計画書(介護計画)」を作成している。介護計画に基づいて「個別支援計画」と「一日の生活プログラム」を立案し、チェック表、経過記録等で日々の実施状況を確認しながら、月1回のカンファレンスで支援計画等の内容確認を行っている。また、3ヶ月毎に短期・長期目標に対するモニタリング、評価を行い次の計画更新・変更等に結び付けている。	ADL・IADL等モニタリングの裏付けとなるアセスメントも定期的にも実施してはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの経過記録、業務日報等の個別の記録を作成し、全ケアワーカーが目をとおしており、必要に応じ日々のケア、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族の意向があれば病院のリハビリテーションに通う、大学図書館での図書借り出し支援などを行っており、歌うことが好きな利用者様が多いこともあり、元宝塚スター等を招いたミニコンサートも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハードの資源としては近隣の公園や神社を活用しての地域の福祉協会(自治会)、人的な資源としては近隣住民の参加を得るのもちつき大会を実施するなどしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>小倉クリニック、常駐看護師との医療連携により、24時間適切な医療が受けられる体制が整っている。</p>	<p>協力医療機関(内科・外科・脳外科)の医師が月2回往診している。利用者・家族は緊急時対応・投薬・通院等の利便性から、往診医をかかりつけ医としているが、家族等の希望を大切に受診支援を行っている。往診医以外の通院介助は基本的には家族が行うこととして契約時にしっかり話し合っているが、家族の都合等により介護タクシー等を利用して、事業所が臨機応変に対応している。受診結果は「医院・薬局・依頼薬連絡票」「申し送りノート」等に記録として残し、お互いに報告し合い、情報を共有している。また、利用者・家族の希望に沿って歯科医の往診も行われている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週に1~2日、看護職常駐の体制をとっており、より看護の強化を図っている。</p>		
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>嘱託医と週1回の往診診察日に利用者様の状況について意見交換を行い、入院が必要になった場合の対応についても話し合っている。利用者様が入院された場合には、病院関係者と情報交換を密に行うとともに、職員が出来るかぎり面会に行くなど、入院中も利用者様との関係づくりに努め、ホームに帰る環境の整備を図っている。</p>	<p>入院時にはかかりつけ医が入院先と連携を取り、「紹介状」とともに、事業所から暮らしぶりやADL等を記載した「介護サマリー」で、入院時に於ける本人の支援方法についての情報を提供している。入院中は可能な限り家族と共に面会に行き、本人への安心しての受療と早期の退院に向けた情報交換を医療ソーシャルワーカー等関係者と行っている。退院前にはカンファレンスに参加し、関係者と退院後の支援方法等の相談を行っている。また、「看護サマリー」を受領し、事業所での支援に活かしている。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に重度化した場合や看取りについてホームの方針を具体的に時間をかけて説明し、その際に、利用者様と御家族の医療や終末期のあり方に係る考え方も確認している。	事業所として看取りを行う方針が有り、契約時に「緊急時の対応事前確認書」で緊急時の意向等を確認するとともに「看取りに関する指針」に沿って、事業所ですることができる具体的支援方法等を説明している。重度化や終末期が進んで来た段階で「終末期生活支援に関する覚書」で家族に意向等を確認し、かかりつけ医の指示等を基に、看取り介護カンファレンスを開催して家族とも繰り返し話し合い、内容は「看取り介護経過説明書」等に記録として残し方針を共有している。地域の歯科医・薬剤師等関係者の協力を得ながらチームで支援に取り組んでいる。また、看護師等がカンファレンス時に看取りについての研修を実施し、看取り時の留意点等を学んでいる。	かかりつけ医はカンファレンスに参加していないが、往診時等に方針等の指示を行って支援に参画していることを踏まえ、「看取り介護経過説明書」の内容について医師の了解を得ていることを記録上残す仕組みづくりを検討してみようか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアル等を整備するとともに、応急手当等を含め看護師指導の下、適切な対応に努めている。	/	
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・災害時の対応マニュアルを作成し、職員全員がいつでも確認しやすい場所に置いている。また、年に2回、避難訓練と研修を実施している。 近隣の方から緊急時の避難についての協力申し出もいただいている。 加湿器などについても製品番号等確認し回収品ではないか等徹底している。	年2回、夜間帯想定も含め利用者も水消火器使用訓練等に参加して、避難誘導・消火・通報等の総合訓練を実施し、訓練後には反省点や課題等を話し合っている。マニュアルは事務室の職員がいつでも見られる場所に置いている。訓練では決められた避難場所まで避難する避難訓練等を実施している。運営推進会議等を通じて近隣への協力を呼びかけ、協力の申し出を得ている。津波時の避難場所は取り敢えず事業所2階としているが、市担当部署と地震時の対応について話し合っている。また、水・食料等を備蓄している。次回訓練は本年3月に計画している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア会議の場で毎回、人生の先輩への敬意を払っての人格の尊重、誇り・プライバシーに配慮した対応の徹底を意識づけている。また、プライバシー保護・接遇マニュアルを作成し、日頃から言葉かけ等について具体的な指導を行いながら対応している。また写真の同意書を作成し、ご家族様に同意を得ている。	年間研修計画に「プライバシー確保・個人情報保護」を採り入れ研修を実施している。また、会議等や日々の利用者との関わりの中で「人生の先輩への敬意を払い、人格の尊重・誇り・プライバシーに配慮した対応」の徹底を意識づけている。言葉かけや対応について、相手が不快に思わないよう努め、具体的に「丁寧な話し方・聞き方、丁寧な対応」を掲示して周知を図っている。不適正と思われる事例があれば注意し合っている。ホームページや「いな穂だより」に掲載する写真等については契約時に「写真同意書」で同意を得、個人記録類はスタッフルームの鍵のかかる保管庫に保管し、個人情報の適正な管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から職員とのコミュニケーションの機会を多く設けることを大切にし、なんでも言いやすい雰囲気づくりに心がけて、利用者様が自分の思いや希望を口にされれば、可能な限り意向に沿ったケアの実現に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別性への理解を深め、利用者様ができることを引き出すという視点を確認しつつケアに取り組むことを確認しあっている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望にあったみだしなみ等ができるよう配慮して、御家族とも相談しながら支援している。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様お一人おひとりの能力と関心に応じて食事前の準備、片付けなどの役割を担っていただいている。 また委託業者に出張寿司として利用者の前で握っていただいたり、オードブル形式の食事を提供している。	基本的には委託業者のメニューに沿った調理済みの食事が届けられ提供されている。利用者の意向や希望等は随時委託業者に連絡表で報告し対応を話し合っている。行事時は利用者の希望を採り入れた行事食メニューに変更し、寿司を外注したりオードブルをバイキング形式で提供する等、食事が楽しみなものになるよう努めている。おやつもホットケーキ等手づくりのものを提供する機会がある。おしぼりの準備や片付けを手伝う場面設定や、声かけを行い、一人ひとりの好みや力を活かすよう努めている。事業所の菜園で利用者とともに収穫したイチジク等をおやつに活かしている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下困難な方には、きざみ・ミキサー・ペーストなどの方法で摂取していただいております。とりわけ水分については1日少なくとも1000mlは摂取していただくよう、毎日、食事量・水分補給量を詳細に記録して支援している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア(全介助・みまもり等)を徹底するとともに、利用者様・御家族の希望に応じて歯科の往診も実施している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で細かくお一人おひとりの排泄状況を把握し、全介助から見守りまで適切な支援に努めている。可能な限り、おむつよりはリハビリパンツとの考えで取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、サインや排泄パターンを確認しながら、全介助・誘導・見守り等一人ひとりの適切な排泄支援に努めている。トイレでの排泄を大切に、可能な限りおむつよりリハビリパンツを、できれば布パンツとの思いのもと、おむつ類を減らすよう努めている。おむつからリハパンに変更できた事例もあり、家族の経済的負担の軽減にもつながっている。また、安全を確認しながら、トイレの扉は必ず閉める等プライバシーの確保や羞恥心の軽減に取り組んでいる。かかりつけ医と連携を取りながら適正な腹部マッサージの実施等で排便管理に努めている。車イス用トイレにはシャワーを取り付け、快適な排泄環境づくりに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため、水分・食事の摂取量に注意しているほか、日頃の体操、散歩などにより運動量の確保に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴を基本とし、利用者様の希望を考慮して曜日・時間を決め対応しているが、失禁によるよごれなどの状況も考慮して回数を増やすなどの柔軟な対応も行っている。	基本的には隔日、午後入浴としているが、利用者の希望等を配慮した支援を行っている。リフト付き浴槽を備えており、シャワー浴より浴槽での入浴という思いとともに、利用者の状況に合わせた入浴支援を行っている。異性介助を嫌がる場合があれば同性で対応し、負担感等で入浴を嫌がる人には時間や声かけを工夫する等、一人ひとりの忌避の理由に応じた支援を行っている。温度・湿度管理を行って、快適な入浴が楽しめるよう支援している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46			<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中の生活を見直し、利用者様の健康状態に配慮した無理のない活動を行っていただくことで、安心して夜間快眠していただけるよう配慮している。</p>		
47			<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬についての資料を作成し、ケアスタッフ全員が閲覧できる場所に備えるとともに、薬剤師と密に連携をとり、各利用者様の服薬には細心の注意を払っている。また症状等に変化などがみられた場合、迅速にドクターなど専門職と連携を図っている。</p>		
48			<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>外食会、近隣への散歩、買い物、洗濯物の整理、食事の後片づけ、かるたとり等のゲームを行うなど利用者様の好みや関心に配慮した支援を行っているほか、音楽療法等の実施や大学図書館での図書の借り出しなどにも対応している。</p>		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体力やその日の体調などを考慮し、散歩を中心に行っていたり、また、初詣、外出、花見などの外出機会を可能な限り多く設けるようにしている。	利用者の状況・希望・天候等に沿って、散歩を主に、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、社会的なつながりを持てるよう郵便局へ利用者を同伴することもある。事業所横の庭で気分転換を図ったり、初詣や桜の時期には家族、中学生ボランティア等の協力を得ながら近くの浄水場等へ花見に出かけている。車イスの利用者も利用者の状況に合わせた移動に配慮し、外出機会づくりに努めている。また、家族にも外食や通院を兼ねて外出支援の依頼を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は金銭を所持しており、スタッフとともに買物に出かける機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、御家族の了解を得て、利用者様がかけたいときにかけていただいている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁・床はウッディな色調とし、ダイニング・各居室の入口に利用者様の作品を貼っているほか、例えばクリスマスツリーなどを飾り家庭の雰囲気を出せるようにしている。加えて、利用者様をなごませる音楽を低音量で流すなど居心地よく過ごせるように務めている。	ひな壇等季節ごとの飾りつけを行い、時には菜園で収穫した果実を使ってのおやつづくり等、暮らしの中に季節感や生活感を採り入れている。共用部分はウッディな色調で統一され、温湿度管理の徹底と清潔感があり、利用者が落ち着いて過ごせる空間づくりが行われている。トイレも利用者には混乱を与えないよう、わかりやすい表示にしている。また、適所にイスやソファを配置し、ウッドデッキでも寛げ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カンファレンス等で意見を出し合い、仲の良い利用者様どうしを隣あわせの席に配置するなどの配慮を行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のなじみの家具、テレビ、仏壇などを持ち込んで利用していただくなど、利用者様のこれまでの暮らしを活かす取り組みをしている。 またお誕生日の写真、若い頃の写真等、飾っている。	各居室入り口のひな人形の紙飾りが季節感を醸し出している。居室には家族の写真・仏壇・たんす・テレビ等利用者が使い慣れたものや好みのものが有り、利用者のこれまでの暮らしを活かすよう取り組んでいる。また、馴染みのもの等が少ない居室には職員が誕生日の写真や塗り絵付の手づくりカレンダー等を飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室は室名を冠した花の絵の表示を採用、トイレ等もわかりやすい表示をするとともに、段差をすべて解消、個室のプライバシーを確保しつつ、職員のいる場所からすべてが見渡せる構造としている。		